

# 令和4年度 施策調査専門委員会の検討内容

本点検結果報告書を作成するにあたり、施策調査専門委員会で議論した内容や意見等について、P12-1～12-3 のとおりまとめる。具体的な検討状況については、県水源環境保全課ホームページに掲載されている。

(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/cnt/f7006/p23138.html>)

## ●主な議題・議論

開催回	開催日	主な議題・議論
第60回	R4. 7. 1	<p><b>1 役員選出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員長には吉村委員（東京工業大学教授）が選任され、副委員長には吉村委員長より五味委員（東京農工大学大学院教授 現：名古屋大学大学院教授）が指名された。</li> </ul> <p><b>2 今後の施策評価スケジュールについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当委員会の所掌事項、前期委員会からの引継事項を確認した後、今年度の専門委員会開催スケジュールを確認した。（年4回開催予定）</li> </ul> <p><b>3 令和3年度のモニタリング調査結果について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 森林関係のモニタリング調査について、水源環境保全課、森林再生課及び自然環境保全センターから、河川のモニタリング調査結果については環境科学センターから、それぞれ令和3年度の実施内容を報告し、意見交換を行った。</li> <li>○ 森林のモニタリング調査について、15年間の施策の結果、森林（山）がどのように変化したかということとを全体的に示すことが必要である。</li> <li>○ 令和元年東日本台風については、100年に一度の突発的な事象として整理してきたが、今後大型台風や集中豪雨が起きた場合に、県としてどのような対策をしているのか説明をした方が良い。</li> <li>○ 河川のモニタリング調査について、動植物調査は5年に1回の頻度であるため、毎年行っている県民調査の内容を経年で見られるようにした方が良い。</li> </ul> <p><b>4 最終評価報告書暫定版の作成について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前回の中間評価報告書では、県民参加と順応的管理についての説明が不足していたので、記載してもらいたい。</li> <li>○ 前回の中間評価の時から社会情勢が変化しており、防災やグリーンインフラといった視点を盛り込んでもらいたい。場合によっては、指標の追加も必要かもしれない。</li> </ul> <p><b>5 施策懇談会の実施について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 来年度は、最終評価報告書暫定版を作成することとなるため、複数回開催を考えて欲しい。</li> </ul>
第61回	R4. 9. 26	<p><b>1 令和3年度点検結果報告書について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水源林の整備事業について、第3期から所有者への返還が行われているので、森林返還のペースについてデータがあった方がよい。森林塾について、令和2年度の課題として林業事業者の就労条件の改善を促す必要性を示唆しているのので、その対応状況を記載した方がよいのではないか。</li> <li>○ 令和3年度で第3期が終わるが、基金等の額が増えている状況である。基金等について記載が必要ではないか。</li> <li>○ 間伐材の搬出補助に関して、令和3年度まで生産性の調査を行っているのので、取</li> </ul>

開催回	開催日	主な議題・議論
		<p>組状況について記載が必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ナラ枯れ問題について、水源施策の範疇でないとしても、何らかのコメントを入れるべきではないか。</li> </ul> <p><b>2 最終評価報告書暫定とりまとめについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 順応的管理については現在のような期ごとに記載するのではなく、PDCA がわかるような記載方法と、15年間でまとめて書くのがよいのではないか。</li> <li>○ 県民参加については、他府県との違いや、実績を含めて総括した説明を記載した方が良い。</li> <li>○ 第3部の評価資料（事業評価シート）については、60ページもあるため、別冊にした方が読みやすくなる。</li> </ul> <p><b>3 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 施策懇談会について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 半日ではグループ討議は困難なため、全体討議で行うが、スムーズに進めるため、事前送付する当日資料に合わせて、コメント用紙を事前に配布する。当日共有し、総合討論等で使用したい。</li> <li>・ 議論の流れを中断しないよう、議題の順番等を変更する。議題3（森林環境譲与税と水源環境保全税のすみ分け）を冒頭に変更。「その他」としている表題は、「総合討論」に変更する。議題2の(2)順応的管理(3)県民参加は統合する。</li> </ul> </li> <li>○ 経済評価について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民会議委員に対する意見聴取は考えていないが、県民会議委員から要望があったため、予備調査をweb体験する機会を設ける予定である。</li> </ul> </li> </ul>
第62回	R4. 12. 19	<p><b>1 令和3年度点検結果報告書について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 水源林の今後の返還状況については、追加資料として掲載を行う。</li> <li>○ 森林塾修了者の林業関連就職者の定着率については、具体のデータを示していく。</li> <li>○ 間伐材の搬出促進について、労働生産性について具体のデータを示していく。</li> <li>○ ナラ枯れについては、水源林の課題ではないが、県民が注目している事象であるため、何らかの記載をしていく。</li> </ul> <p><b>2 令和3年度森林環境譲与税の用途について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 森林環境譲与税と水源環境保全税のすみ分けについては、引き続き確認していく。</li> <li>○ 譲与税の用途について、基金への積み立てが多いとの新聞報道があった。基金化の状況についても確認していきたい。</li> </ul> <p><b>3 勉強会の議題について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日程については1月27日午前中で決定。議題については、各委員から提案を頂き、事務局と委員長により調整をしていくこととした。</li> <li>○ 勉強会の方法として、①県のモニタリング結果等を聞き議論する、②外部講師の説明を受け議論する、③施策調査専門委員が説明し議論する、といった方法が考えられるが、勉強会については、予算をかけずに行っているため、①及び③に方法で行っていくこととした。</li> </ul> <p><b>4 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第48回県民フォーラムの開催状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第48回県民フォーラムの開催結果の速報を報告した。</li> </ul> </li> <li>○ 経済評価の状況について</li> </ul>

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ CVMの予備調査の結果を報告し、本調査の実施方法について説明を行った。</li> <li>・ 平成 26 年度との比較を念頭に最終評価への活用について検討していくこととした。</li> </ul>
第 62 回	R5. 2. 7	<p><b>1 令和 3 年度点検結果報告書について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県民会議委員への照会の結果、必要な箇所について修正を行った。その他、施策調査専門委員からの指摘について、改めて修正のうえ、再度、県民会議委員へ照会を行い、報告書を完成させていくこととした。</li> </ul> <p><b>2 最終評価報告書暫定とりまとめについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体を 4 部構成とする中で、第 1 部については、第 2 部以降を読み解いていけるように前提条件となる情報を記載していくこととした。</li> <li>○ 2007 年度施策開始以降の状況の変化（人口動態や林齢等）も記載していくこととした。</li> <li>○ 第 4 部については、別に作成する意見書と一部内容がオーバーラップするような記載とすることを検討していく。</li> </ul> <p><b>3 令和 5 年度施策調査専門委員会スケジュールについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最終評価報告書暫定版を取りまとめにあたって、事業モニターや県民フォーラム等での意見を反映させていく必要があるが、スケジュールの都合がつかない。そのため、12 月の施策調査専門委員会の場で、作業チームからの報告を受けることを県民会議で提案することとした。</li> <li>○ 令和 5 年度の勉強会では、最終評価についてブレインストーミング的に議論できるように検討していく。</li> </ul> <p><b>4 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済評価について <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CVMの本調査の結果を報告した。一部の要因分析について、モデル構築が出来なかったため、その取扱いについて精査していくこととした。</li> <li>・ その他の評価については、有識者検討委員会の指摘を受けて精査しているところである。結果については、次回の施策調査専門委員会で報告する。</li> </ul> </li> </ul>